

総務班

災害対策本部の事務、災害情報の収集および伝達、JGA等への応援要請、職員の安否確認や配備状況のとりまとめ、医療機関との連絡調整および他の班の所管に属さない事務全般を担当した。

地震発生当時は、市議会の開催中であったため、課長以上の職員がガス局庁舎(幸町庁舎)に不在であった。総務班は、財務班の庁舎管理の担当と共に、庁舎内の職員を屋外へ誘導し、10分ほどで避難を完了させた。幸町庁舎にいた職員については全員の無事を確認し、あわせて、電話、無線等で港工場や泉・南営業所の職員の安否確認を行ったが、地震発生直後から通信状態が悪化し、市内はすでに連絡の通じにくい状況であった。なお、休暇中の職員も含めて、最終的にすべての職員の無事を確認できたのは、発災から5日後の3月16日のことであった。

断続的に余震が続く中、倒れたロッカーがスペースを塞ぎ書類が散乱する事務室において、総務班はガス局災害対策本部会議開催の準備に取りかかった。課長以上の職員がガス局に戻り、15時50分に最初の災害対策本部会議を開催した。

復旧作業が完了するまでの間、総務班は、ガス局災害対策本部会議のほかに、管理者が出席する市災害対策本部会議、次長が出席する市次長級連絡会議(3月22日～)や宮城県災害対策本部会議、管理者から関係課長までが出席するJGAとの情報連絡会議(3月16日～)について、連日、資料の準備や取りまとめを行い、各機関との連絡調整と情報共有に努めた。また、限られた人数の中、市災害対策本部へ情報連絡員を途切れることなく出し続けた。

また、全体を見れば、各班では昼夜を問わずJGA復旧隊との復旧作業に関する協議やお客さま対応に従事し、一時帰宅さえままならない職員も少なくなかった。加えて、交通機関の遮断、ガソリン不足等から多くの職員が通勤困難な状況となっていた。さらには、親族を失った職員や自宅に大きな被害を受けた職員、車が流出した職員も多くおり、ほとんどの職員が体力的にも精神的にも限界に近い疲れやストレスを抱えていた。

そのような状況の中で、食料配給や職員の健康管理など、各班の後方支援を行うことも、総務班の重要な責務の1つで

あった。

食料配給については財務班と連携し、発災翌日からJGA復旧隊が解散する4月17日まで欠かさず行った。また、健康管理については常駐看護師が定期的に職場巡回を行いながら、マスクや医薬品を配布するなどし、健康維持に努めた。厳しい環境ではあったが、職員一人一人が1日も早い供給再開を願い、それまでは絶対に倒れるわけにはいかないという責任感を持ち続けた結果、誰一人欠けることなく復旧業務を完遂できたことは、非常に喜ばしいことであった。

今後の課題として、困難な状況の中で、いつ倒れてもおかしくないほどの長時間労働を余儀なくされた職員が多かったことから、適切な時期に、多忙な班には横断的かつ柔軟に人員を投入し、負担を分かち合いながら全局的な対応が進められるような勤務シフトを構築する必要がある。

■復旧のあゆみ

- [3月11日]** 15時50分、第1回災害対策本部会議
16時36分、津波による港工場の冠水によりガス供給の全面停止
16時39分、JGA災害対策本部へガス供給の全面停止を連絡
市災害対策本部に情報連絡員を派遣
(～9月2日まで)
17時30分、第2回災害対策本部会議
21時15分、第3回災害対策本部会議
- [3月12日]** 0時30分、第4回災害対策本部会議
JGA先遣隊との協議事項を準備開始
7時00分、第5回災害対策本部会議
10時00分、第6回災害対策本部会議
市健康福祉局より、葛岡斎場への供給要請
14時30分、第7回災害対策本部会議
20時00分、第8回災害対策本部会議
- [3月13日]** 10時00分、第9回災害対策本部会議
JGA先遣隊27名到着
- [3月16日]** 災害対策本部会議を朝10時と夕方17時の定期開催にする
JGAとの情報連絡会議を毎朝行う(～4月17日まで)
全職員の安否確認完了
- [3月18日]** JGA閉栓隊が閉栓作業に合流
管理者が庁内放送で職員に対し感謝と激励
- [3月19日]** 4月1日の定期人事異動について1カ月凍結を決定
- [3月24日]** JGA修繕隊の受入式
- [3月25日]** JGA閉栓隊の解散式
- [3月26日]** JGA閉栓隊の受入式
- [3月31日]** ガス局退職者に1階での来庁者受付業務を依頼
- [4月1日]** 新規採用者を総務課で受け入れ
- [4月8日]** 大規模余震により、復旧ブロック3ブロックを供給停止
- [4月17日]** JGA復旧隊の解散式
- [4月18日]** 幸町庁舎の食堂、喫茶が通常営業再開



◀ 3月16日～4月17日まで約1カ月にわたって毎朝開催されたJGAとの情報連絡会議。復旧の進捗状況を確認するとともに、さまざまな問題点等も報告される重要な会議であったが、その資料の取りまとめと準備も総務班の重要な任務の1つであった。

▶ 食料の確保と配給は後方支援の重要な責務の1つであった。幸町庁舎の食堂を運営する会社との協議は震災当日に行い、昼食の手配を依頼した。翌3月12日より4月17日まで職員等への配給を行った。

※朝食・夕食は財務班と連携し対応した。



◀ 物資の搬入は庁舎内で勤務中の職員が参加して対応した。運搬用機材の確保も難しかったため、一列に並んで手渡しリレーで行った。復旧活動はいずれの場面でも総務員体制であった。

▶ 福井市をはじめ全国各地の自治体や団体等から届けられた救援物資。全国からの温かな支援に答えるために、復旧活動は力強く、日々着々と進められていった。

